

LSProbe CI-250⁺ クイックスタートガイド

LUMILOOP GmbH

2026 年 3 月 13 日

このドキュメントの最新バージョンと LSProbe ユーザーズ
マニュアル全文は以下で見つかります

www.lumiloop.de

1 システムの概要



CI-250⁺ LSProbe システムは、レーザー駆動の高速 E フィールドプローブ、統合 CI-250 コンピュータ インターフェイス、シングルボードコンピュータ、統合タッチスクリーンディスプレイ、電源コード、および USB フラッシュドライブで構成されています。

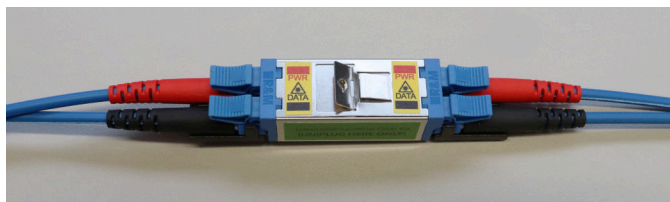
CI-250⁺ コンピュータ インターフェイスには、LUMILOOP TCP サーバー、LUMILOOP GUI、工場校正データ、およびオプションで認定校正データがプリインストールされた状態で出荷されます。

USB フラッシュドライブには、リモート '+' デバイス アクセス用の LUMILOOP GUI を含む LUMILOOP Windows インストーラーと、キャリブレーション データのコピーが含まれています。

サードパーティの EMC ソフトウェアは、TCP/IP 経由で交換される SCPI コマンドを使用して I-250⁺ LSProbes と通信します。

2 光ファイバーの接続

注意：すべての LS プローブは、専用の光ケーブルが添付されており、使用の際にはその接続が必須です。



交換用犠牲ケーブルが各 LS プローブシステムに付加されています。光ケーブル、取り外しは、常時 E2000 型コネクタ部分で行ってください。交換用犠牲ケーブルの E2000 コネクタは、汚染防止とそれに起因する光ファイバーの焼損を防止する自動シャッターを備えています。と、例えば、す

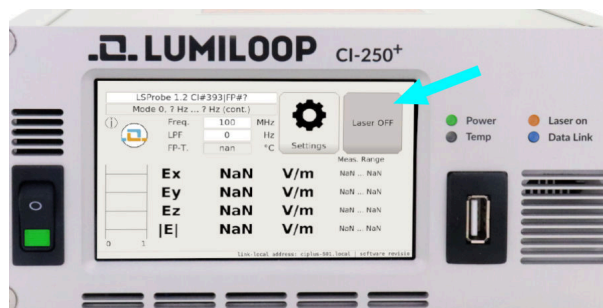
べての光コネクタ接続部は、常時完全にクリーンな状態を保っておく必要があります (E2000 コネクタのシャッター部分も含めて)。

尚、光ケーブル焼損の際には、ユーザー自身が 2 組 交換用犠牲ケーブルのみを交換するだけで良く、低コストでスピーディな復旧が可能です。

詳細は、LSProbe 取扱説明書の 項を参照してください。5.1.1.

3 システムスタートアップ

1. 付属の主電源コードを CI-250⁺ に接続します。
2. フロントパネルのスイッチを「緑」に設定して CI-250⁺ をオンにし、フロント USB ポートの上にある緑色の「電源」LED が点滅し始めるのを確認します。LUMILOOP TCP サーバーと LUMILOOP '+' デバイス GUI が自動的に起動します。緑色の「電源」LED が常時点灯状態となることで、正常に動作していることを示します。



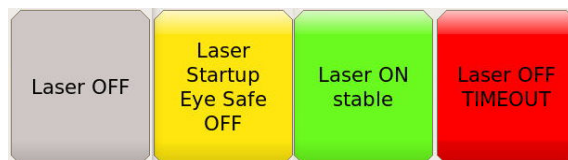
3. 追加の LUMILOOP LSProbe および/または LSPM デバイスを USB 経由で CI-250⁺ に接続できます。

4 LUMILOOP '+' Device GUI

LUMILOOP '+' Device GUI は、システム起動後に自動的に起動し、バックグラウンドで動作している LUMILOOP TCP Server と通信します。

1. 「レーザーオフ」ボタンをタップして供給レーザーをアクティブにし、E フィールドプローブをオンにします。コンピューター インターフェイスのオレンジ色の「レーザーオン」インジケータ LED に、供給レーザーのアクティビティが表示されます。

注意：オレンジの LED が点滅した場合は、自動パワー制御機能 (APR) が動作しないことを示し、光接続部等に異常がある可能性があります。



適切な動作は、以下に示すように、GUI の「電源」、「レーザーオン」、「データリンク」の LED に緑色の「レーザーステータス」が継続的に表示され、示されます。

2. GUI には、x 軸、y 軸、z 軸の電界強度値、等方性電界強度、設定されたモードの最大および最小の校正済み電界強度が表示されます。

